

第3 問題作成部会の見解

日本史 A

1 出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

- 歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視する。用語などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず、歴史的事象の意味や意義、特色や相互の関連等について、総合的に考察する力を求める。問題の作成に当たっては、事象に関する深い理解に基づいて、例えば、教科書等で扱われていない初見の資料であっても、そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題、仮説を立て、資料に基づいて根拠を示したり、検証したりする問題や、歴史の展開を考察したり、時代や地域を超えて特定のテーマについて考察したりする問題などを含めて検討する。

2 各問題の出題意図と解答結果

第1問 学習指導要領日本史A 2内容(2)ア(ア)「近代の萌芽や欧米諸国のアジア進出、文明開化などに見られる欧米文化の導入と明治政府による諸改革に伴う社会や文化の変容、自由民権運動と立憲体制の成立に着目して、開国から明治維新を経て近代国家が形成される過程について考察させる」や、(2)イ(イ)「諸国家間の対立や協調関係と日本の立場、国内の経済・社会の動向、アジア近隣諸国との関係に着目して、二つの世界大戦とその間の内外情勢の変化について考察させる」や、(3)ウのうち「近現代の歴史にかかわる身の回りの社会的事象と関連させた適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その解決に向けた考えを表現する活動を通して、歴史的な見方や考え方を身に付けさせる」を踏まえ、身近な題材である娯楽を通して、近現代の社会・文化・経済・政治に関する理解と、思考力・判断力・表現力等を問うことをねらいとした。全ての小問において極端な正答率は出しておらず、正答率・識別力において妥当だった。

第2問 学習指導要領日本史A 2内容(2)ア(ア)「近代の萌芽や欧米諸国のアジア進出、文明開化などに見られる欧米文化の導入と明治政府による諸改革に伴う社会や文化の変容、自由民権運動と立憲体制の成立に着目して、開国から明治維新を経て近代国家が形成される過程について考察させる」ことを踏まえた作問である。そのなかでも特に幕末から明治の日本社会における伝統的な慣習と欧米文化の受容の相関を考察させるため、洋装の浸透や銀行制度の確立に注目し、当該期の歴史に関する基本的な知識・理解と思考力・判断力・表現力等を問うことをねらいとした。全ての小問において極端な正答率は出しておらず、正答率・識別力において妥当だった。

第3問 学習指導要領日本史A 2内容(2)ア(ア)「近代の萌芽や欧米諸国のアジア進出、文明開化などに見られる欧米文化の導入と明治政府による諸改革に伴う社会や文化の変容、自由民権運動と立憲体制の成立に着目して、開国から明治維新を経て近代国家が形成される過程について考察させる」、(2)イ(イ)「産業革命の進行、都市や村落の生活の変化と社会問題の発生、学問・文化の進展と教育の普及、大衆社会と大衆文化の形成に着目して、近代産業の発展と国民生活の変化について考察させる」を踏まえ、学校教育という着眼点を軸にしつつ、社会・経済や立憲政治、国民生活や文化、国際情勢など幅広い分野と関連付けた理解・歴史的思考力や、文献資料・統計資料など様々なタイプの資料に基づく思考力・判断力・表現力等を問うことを目的とした。多くの小問において極端な正答率は出しておらず、正答率・識別力において妥当だった。問4及び問6については、正答率が3割を下回っているが、最上位者を識別する問題となっている。

第4問 学習指導要領日本史A2内容(2)「開国前後から第二次世界大戦終結までの政治や経済、国際環境、国民生活や文化の動向について、相互の関連を重視して考察させる」及び(3)「第二次世界大戦後の政治や経済、国際環境、国民生活や文化の動向について、現代の諸課題と近現代の歴史との関連を重視して考察させる」ための主題として、日本の近現代における国際関係の歴史的事象の分析と考察をテーマに掲げた。そこから、(2)イ(イ)にいう「諸国家間の対立や協調関係と日本の立場、国内の経済・社会の動向」について、日本史Aの学習内容に即して、関連史料を示しつつ、第一次世界大戦後の日本と国際社会との関係と、国内政治の展開について問うた。さらに、(3)アがいう「占領政策と諸改革、新憲法の成立、平和条約と独立、国際交流や国際貢献の拡大などに着目して、我が国の再出発及びその後の政治や対外関係の推移について考察させる」ために、関連史料も示しつつ、第二次大戦後の日本と国際社会の関係や社会の歴史的な変化について問うた。多くの小問において極端な正答率は出ておらず、正答率・識別力において妥当だった。問2及び問6については、正答率が3割を下回っているが、最上位者を識別する問題となっている。

第5問 学習指導要領日本史A2内容(2)イ(ア)のうち、「産業革命の進行、都市や村落の生活の変化と社会問題の発生、学問・文化の進展と教育の普及、大衆社会と大衆文化の形成」に着目して、第一次世界大戦前後における工業化の過程について問うた。さらに、2(3)イ「戦後の経済復興、高度経済成長と科学技術の発達、経済の国際化、生活意識や価値観の変化」に着目し、敗戦後の経済発展、生活の変化について問うことにより、「日本経済の発展と国民生活の変化など」について考えることをねらいとした。多くの小問において極端な正答率は出ておらず、正答率・識別力において妥当だった。問1及び問6については、正答率が3割を下回っており、最上位者を識別する問題となっている。

3 自己評価及び出題に対する反響・意見等についての見解

問題の程度については、「学習指導要領の趣旨を踏まえ、史資料の読解力や分析力、さらに思考力・判断力・表現力等を問う傾向が今年度も色濃く出ており」、「受験者にとって初見と思われる史資料を論理的に読み取り、考察する力が求められる点は、総じて例年通りであった」との評価をいただいた。出題の内容については、「ある事柄を他の事柄と関連付けながら、歴史的事実に関する内容や背景、因果関係等、理解の質を問う工夫が見られた」との評価もいただいた。

総括的には、今回の出題によって、「今回で4年目となる共通テストは、思考力・判断力・表現力等を重視する学習指導要領の指針に合致するもので、受験者の基本的事項の正確な理解を適正に評価する問題であった」との評価をいただいた。これは部会としても喜びとするところである。今後こうした評価をいただけるよう継続して努力していきたい。一方、「地図を用いた出題は昨年同様見られず空間認識を問う観点が出題上不足している」との指摘もいただいている。この点については、次年度の課題としたい。

第1問

問1 政府の近代化政策と民衆の反応について問うた。「当時の反応や影響をおさえておく必要があることを示唆した良問」と評価された。

問2 明治初期の北海道開拓政策を考える力を問うた。「史料と知識の活用という点で共通テストらしい出題」と評価された。

問3 明治期の文学の特徴を理解する力を問うた。「会話文を読むことの重要性や文化史学習の方向性が示された」と評価された。

問4 戦時下の文化や思想の変化を考える力を問うた。「受験者に幅広い分野を学習する重要性を改めて認識させる」と評価された。

問5 国内外の情勢について問うた。「日頃の学習でも年代に固執せず、出来事の流れを意識でき

るかが重要といえる良問」と評価された。

問6 リード文から読み取った情報と習得した知識を活用して、史料からどのようなことを調べられるかという思考力・判断力を問うた。

問7 戦時下に制定され敗戦後まで存続する法律について問うた。「一つの法律について時代を横断して学習できているかが問われる良問」と評価された。

第2問

問1 発表原稿の空欄に適する語句の組合せを選択する問題。「文明開化の中で起こった人々の生活の洋風化に対する興味・関心も求められる問い」と評価された。

問2 幕末における輸入総額と輸入品のグラフを読み取る問題。「Yについては欧米諸国が関税率の引き上げを要求する矛盾を理解していれば容易に判断できる」と指摘された。

問3 明治初期の国立銀行についての問題。「当時の金融制度に関する知識・理解だけでなく、史料の丁寧な読み取りが求められた」と評価された。

問4 明治期の文化について、正文の組合せを判断する問題。「明治時代の文化や思想、社会制度に関する正しい知識・理解が求められた」と評価された。

第3問

問1 日本の対外関係、および明治期の教育におけるお雇い外国人の役割を問うた。「近代の文化や産業に関する基本的な知識・理解が求められた」と評価された。

問2 学校種別の校数の推移を基にして、その背景を問うた。「表の読み取りだけでなく義務教育の年限や大学令など知識をあわせて解答する良問」と評価された。

問3 戦争や敗戦など社会状況の変化が教育に与えた影響を問うた。「それぞれの時期の社会状況に関する知識・理解を踏まえ、正しく判断する力が求められた」との評価を受けた。

問4 学制に関する基礎的な知識を基として、学制布告に関する史料の読解する力を問うた。「冷静な思考力・判断力が求められる良問」と評価された。

問5 文官任用令に関する史料を、明治期の立憲政治に関する知識を応用しながら読み解き、学校教育と高級官吏の登用がリンクされていく過程を思考する力を問うた。

問6 教育・学術研究に関する事項について、年代整序する力を問うた。「2024年の新紙幣について意識のある受験者であれば登場人物についても学習しやすかった」と評価された。

問7 まとめ問題として、近現代の教育と社会との関係を問うた。「明治時代から戦後期までの教育を取り巻く状況に関する正しい知識・理解が求められた」と評価された。

第4問

問1 ワシントン会議を題材に、日本の対外政策と国際環境について問うた。「日英同盟やワシントン海軍軍縮条約に関する正しい知識・理解が求められた」と評価された。

問2 1920年代の外交と政党内閣の結びつきについて問うた。「内閣ごとに政策が整理されていれば比較的回答しやすい。」と評価された。

問3 満州事変を題材に、日本の対外政策と国際条約・規範との関係について問うた。「史料を最初から最後まで丁寧に読み解くことが求められた」と評価された。

問4 アジア・太平洋戦争に至るまでの日本の外交について問うた。「1930年代から1940年代までの日本の外交に関する正しい知識・理解が求められた」と評価された。

問5 敗戦と、その後の占領が、日本社会に与えた影響について問うた。「占領政策や占領期の風潮に関する正しい知識・理解が求められた」と評価された。

問6 サンフランシスコ講和会議に始まるアメリカとの歴史的な展開について問うた。「日米関係に関する正しい知識・理解が求められた」と評価された。

問7 敗戦後における日本の国際関係に関して問うた。「対日講和会議以後の日本の外交に関する基本的な知識・理解が求められた」と評価された。

第5問

問1 1910年代から20年代における工業化についての知識を問うた。

問2 関東大震災後の震災手形，第一次世界大戦後の慢性不況について問うた。「史料を丁寧に読み解いた上で，思考力・判断力が求められる良問」と評価された。

問3 高度経済成長期の所得倍増計画，高度成長の終焉について問うた。

問4 傾斜生産方式を始めとして，敗戦後の経済成長の過程を問うた。「敗戦後の復興期から1960年代までの日本経済の特徴に関する正しい知識・理解が求められた」と評価された。

問5 第二次世界大戦後の日本の経済成長を問うた。「表と史料の丁寧な読み取りと戦後日本の経済成長に関する正しい知識・理解が求められた」と評価された。

問6 高度経済成長期における産業構造の変化，経済発展を問うた。「グラフの正確な読み取りと昭和時代の経済に関する基本的な知識・理解が求められた」と評価された。

問7 まとめ問題として，近現代日本の経済成長，産業発展に関する総合的理解を問うた。「近現代の日本経済の特徴に関する正しい知識・理解が求められた」と評価された。

4 ま と め

今年度の平均点は，前年度より3.34点低い42.04点であった。知識・理解の質と思考力・判断力・表現力等を組み合わせて正解を導く問題を工夫した結果とも考えられるが，おおむね標準的な問題を作成できたと判断している。来年度以降も，科目の問題作成方針に則り，思考力・判断力・表現力等を適切に評価できる問題作成を進めたい。本部会は従来からの問題作成上の留意点として以下の4点を挙げてきた。

- (1) 高等学校教育の範囲と水準を逸脱することなく，標準的な問題を作成するように心掛ける。
- (2) 高校現場での授業に配慮する。
- (3) 問題領域や設問形式のバランスや文字資料・図版資料・地図・表・グラフの適切な使用に留意しつつ，「歴史的思考力」を問う問題をより多く出題するような工夫をする。
- (4) 「日本史B」との共通問題について，難易度に一層配慮する。

今回4回目の共通テストで，これまでの知見の蓄積を活用し，ご指摘いただいたことも踏まえ，問題作成を行っていききたい。

日本史B

1 出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

- 歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視する。用語などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず、歴史的事象の意味や意義、特色や相互の関連等について、総合的に考察する力を求める。問題の作成に当たっては、事象に関する深い理解に基づいて、例えば、教科書等で扱われていない初見の資料であっても、そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題、仮説を立て、資料に基づいて根拠を示したり、検証したりする問題や、歴史の展開を考察したり、時代や地域を超えて特定のテーマについて考察したりする問題などを含めて検討する。

2 各問題の出題意図と解答結果

第1問 学習指導要領日本史B 1目標に書かれた「我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察させ」ることを目的とし、印刷や書物を素材として、印刷物やその素材となる紙の生産状況、読み継がれる書物について政治的・社会的背景とを関連付けて考えさせることをねらって作問した。古代から近代まで広い視点から問えるようにし、出題形式もバラエティに富むよう心掛けた。「身近な品物から歴史を考えるとという視点でいえば、歴史総合への移行という視点でも適切な問題設定である」と評価された。全ての小問において極端な正答率は出でおらず、正答率・識別力において妥当だった。

第2問 学習指導要領日本史B 2内容(1)「原始・古代の日本と東アジア」を踏まえて作問した。(1)ア「遺跡や遺物、文書など様々な歴史資料の特性に着目し、資料に基づいて歴史が叙述されていることなど歴史を考察する基本的な方法を理解させ」ること、イの「日本文化の黎明と古代国家の形成」及びウの「古代国家の推移と社会の変化」のうち「文化の特色とその成立の背景」について考察させることを目指し、食物という身近なテーマを基に、具体的な史料の読解の技能、思考力・判断力・表現力等を問うた。「前・後半ともに会話文をリード文にして史資料を活用した出題である」と評価された。ほぼ全ての小問において極端な正答率は出でおらず、正答率・識別力において妥当だった。問2については、正答率が8割を上回っているが、成績中下位者を識別する問題となっている。

第3問 学習指導要領日本史B 2内容(2)イのうち、「武士の土地支配と公武関係」、(2)ウ「武家文化と公家文化のかかわりや庶民文化の萌芽に着目して、中世社会の多様な展開、文化の特色とその成立の背景について考察させる」、(2)ア「歴史資料を含む諸資料を活用して、歴史的事象の推移や変化、相互の因果関係を考察するなどの活動を通して、歴史の展開における諸事象の意味や意義を解釈させる」を踏まえ、中世社会の特色に関する学習の場面を取り上げ、この時期に制定された法及び文化・公武関係・社会慣行について考察する設問を用意して、思考力・判断力・表現力等を問うた。極端な正答率は出でおらず、正答率・識別力において妥当だった。問4については、正答率が8割を上回っているが、成績中下位者を識別する問題となっており、問1及び問2については、正答率が3割を下回っているが、最上位者を識別する問題となっている。

第4問 学習指導要領日本史B 2内容(3)イのうち「ヨーロッパ世界との接触やアジア各地との関係」、ウのうち、「幕藩体制下の農業など諸産業や交通・技術の発展」や「近世の都市や農山漁村における生活や文化の特色とその成立の背景、幕藩体制の変容と近代化の基盤の形成について考察させる」を踏まえ、近世の経済・社会・政治・対外関係に関する総合的理解と、思考力・判断力・表現力等を

問うことをねらいとした。近世の輸出入品と社会・経済との関係をテーマとして、多様な史料を用いつつ、「会話文が効果的に生かされている」と評価された。全ての小問において極端な正答率は出しておらず、正答率・識別力において妥当だったと考えられる。

第5問 学習指導要領日本史B2内容(4)ア「開国と幕府の滅亡、文明開化など欧米の文化・思想の影響や国際環境の変化、自由民権運動と立憲体制の成立に着目して、明治維新以降の我が国の近代化の推進過程について考察させる」ことを踏まえた。そのなかでも特に幕末から明治の日本社会における伝統的な慣習と欧米文化の受容の相関を考察させるため、洋装の浸透や銀行制度の確立に注目し、当該期の歴史に関する基本的な知識・理解と思考力・判断力・表現力等を問うことをねらいとした。全ての小問において極端な正答率は出しておらず、正答率・識別力において妥当だった。

第6問 学習指導要領日本史B2内容(5)「両大戦間期の日本と世界」及び(6)ア「現代日本の政治と国際社会」を主題として、日本の近現代における国際関係の歴史的事象の分析と考察をテーマに掲げた。そこから2(5)イのうち、「国際社会の中の日本の立場に着目して、第一次世界大戦前後の対外政策の推移」について、日本史Bの学習内容に即して、関連史料を示しつつ、第一次世界大戦後の日本と国際社会との関係と、国内政治の展開について問うた。さらに、2(6)ア「占領政策と諸改革、新憲法の成立、平和条約と独立、国際交流や国際貢献の拡大などに着目して、我が国の再出発及びその後の政治や対外関係の推移について考察させる」ために、第二次大戦後の日本と国際社会の関係や社会の歴史的な変化について問うた。ほぼ全ての小問において極端な正答率は出しておらず、正答率・識別力において妥当だった。問2の正答率は3割を下回っているが、最上位者を識別する問題となっている。

3 自己評価及び出題に対する反響・意見等についての見解

出題の内容については「全体を通して各分野の特徴を網羅した内容であり、例年通りに豊富な史料を活用し、思考・判断につながる出題が多く見られた」、出題の分野については「政治史、社会・経済史、外交史、文化史といった諸分野が横断的にバランスよく出題されていた」との評価を得た。問題の程度については、「学習指導要領が求める資質・能力を逸脱してはならず、知識・理解の質や思考力・判断力・表現力等を問う問題がバランスよく配置され、総じて適正であった」との評価をいただいた。総括的には、「基本的事項の正確な理解や知識、資料を基にした思考力・考察力・表現力等を問うものであり、受験者の培ってきた資質・能力を評価するのにふさわしいものだった」との評価をいただいた。これは部会としても喜びとするところである。今後もこうした評価をいただけるよう継続して努力していきたい。

一方で、「文字史料を題材とすること自体は歓迎するが、その分量については検討をお願いしたい」、「資料活用に主眼が置かれ過ぎ、受験者の負担が大きくなっているのも事実であり、日本史Bの学力を測るに適切な分量になるよう均衡をとっていただきたい」との指摘をいただいた。資料の分量については、部会として改めて議論したい。時代については、近代以降の問題は、戦後史も含めたことから、昨年に比べると充実していた半面、古代においては、縄文・弥生・古墳時代からの出題が少ないという傾向があった。出題する時代の均衡については、次年度も引き続き配慮する。

第1問

問1 奈良時代の政治について時系列で理解できているかを問うた。「史料の活用という観点や歴史事象の因果関係に着目させるという観点で良問」と、高く評価された。

問2 中世における日本と朝鮮半島との関係を問うた。「室町期の日朝貿易の推移と豊臣秀吉の朝鮮出兵の影響に関わる理解が求められる」と評価された。

問3 紙を扱う商人に関する法令から、16世紀の商品流通について問うた。「史料の丁寧な読み取りを求める問題」と評価された。

問4 近世に始まった活字印刷の背景・影響を問うた。「用語の穴埋めではなく、その歴史用語の特徴を選ばせる出題で工夫が見られた」と評価された。

問5 江戸時代後期の学問・文芸について、洋学や文学と関連付けて理解できるかどうかを問うた。「江戸後期の文化史についての知識が求められる」と評価された。

問6 近世末～近代の印刷・出版のあり方や文化の状況について問うた。「史料を正確に読解する技能と明治時代の出版物についての知識が求められる」と評価された。

第2問

問1 調理に用いる土器の用途について問うた。「写真と補足説明から読み取った情報と説明文の内容とを統合する思考力・判断力・表現力等が求められる」と評価された。

問2 古代国家の塩の徴収に関する思考力・判断力・表現力等をはかる設問。「授業でも空間認識を促す必要があることを示唆する良問」と評価された。

問3 女性の服装に関連する内容を通じて、古代の文化の展開に関する理解を問うた。「飛鳥期から平安中期の文化史についての知識が求められる」と評価された。

問4 古代国家の国制の展開について問うた。「会話文及び史料を正確に読解する技能とともに、読解した情報を統合する思考力・判断力・表現力等が求められる」と評価された。

問5 古代の食物に関する資料の性格・内容について問うた。「短絡的な暗記では対応できない設問」で、「歴史的な知識と情報処理能力とを測る出題としては良問」と評価された。

第3問

問1 鎌倉期から室町期にかけて、朝廷と幕府との関係を問うた。「設問の設定にも合致していて良問」と評価された。

問2 永仁の徳政令に関する問題である。「史料から読み取った情報と会話文の内容とを統合する思考力・判断力・表現力等が求められる」と評価された。

問3 南北朝時代の学問・文芸の担い手に関する問題である。「南北朝文化についての知識が求められる」と評価された。

問4 分国法に関する問題である。「分国法に関して史料を選択させる新しい形式の問題」と評価された。

問5 中世社会の自力救済の思想・慣行について問うた。「中世の全体的な理解を問う良問」と評価された。

第4問

問1 中世から近世前期にかけての輸出入品と物産の変化を問うた。「文脈から考えることができた」、「会話文が効果的に生かされている」と評価された。

問2 鎖国に至る政治過程・対外政策について問うた。「歴史的な事象の変遷についての理解度を測る問題として良問」と評価された。

問3 俵物の輸出についての思考力・判断力・表現力等を問うた。長崎貿易について、「中国側の視点で考えさせるような年表や資料を読み取らせる出題」を考へてもよかったのではないかと指摘があった。

問4 砂糖の輸入経路や国内での生産が広がっていく経緯が記された史料を、分析的に読み解く問題。「注釈を丁寧に読み解けば史料内にすべての根拠を見出すことができるため難しくはない」と評価された。

問5 国内の養蚕・製糸・絹織物業についての問題。「史料は要約なので読み取りは難しくない」と評価された。

第5問

問1 発表原稿の空欄に適する語句の組合せを選択する問題。「開国後の貿易と文明開化の風潮についての理解及び知識が求められる」と評価された。

問2 幕末における輸入総額と輸入品のグラフを読み取る問題。「グラフから読み取った情報と幕末期の外交についての知識とを結合する思考力・判断力・表現力等が求められる」と評価された。

問3 明治初期の国立銀行に関して正文を選択する問題。「資料読解の技能と、明治期の貨幣制度に関する理解が求められる」と評価された。

問4 明治期の文化について、正文の組合せを判断する問題。「明治期の文化史及び社会史についての知識が求められる」と評価された。

第6問

問1 日本の対外政策と国際環境について問うた。「ワシントン会議に関する理解、史料読解の技能及び外交についての複数の知識を統合する思考力・判断力・表現力等が求められる良問である」と評価された。

問2 1920年代の日本外交と政党内閣の結びつきについて問うた。「大正期から昭和初期にかけて組閣された内閣についての知識が求められる」と評価された。

問3 日本の対外政策と、第一次大戦後に登場した新たな国際条約・規範との関係について問うた。「史料を正確に読解する技能が求められる」と評価された。

問4 アジア・太平洋戦争に至るまでの日本の外交について問うた。「日中戦争から太平洋戦争開戦までの日本の外交に関する理解及び知識が求められる」と評価された。

問5 敗戦と、その後の占領が、日本社会に与えた影響について問うた。「占領期の政治・社会史及び文化史に関する理解及び知識が求められる」と評価された。

問6 サンフランシスコ講和会議に始まる外交史について問うた。「敗戦後の日米間の外交に関する理解及び歴史的転換についての思考力・判断力・表現力等が求められる」と評価された。

問7 敗戦後における日本の国際関係について問うた。「講和会議と戦後の日中間の外交についての知識が求められる」と評価された。

4 ま と め

今年度の平均点は、前年度より3.48点低い56.27点であった。知識・理解の質と思考力・判断力・表現力等を組み合わせて正解を導く問題を工夫した結果とも考えられるが、おおむね標準的な問題を作成できたと判断している。来年度以降も、科目の問題作成方針に則り、思考力・判断力・表現力等を適切に評価できる問題作成を進めたい。本学会は従来からの問題作成上の留意点として以下の4点を挙げてきた。

- (1) 高等学校教育の範囲と水準を逸脱することなく、標準的な問題を作成するように心掛ける。
- (2) 高校現場での授業に配慮する。
- (3) 問題領域や設問形式のバランスや文字資料・図版資料・地図・表・グラフの適切な使用に留意しつつ、「歴史的思考力」を問う問題をより多く出題するような工夫をする。
- (4) 「日本史A」との共通問題について、難易度に一層配慮する。

今回4回目の共通テストで、これまでの知見の蓄積を活用し、ご指摘いただいたことも踏まえ、問題作成を行っていきたい。